

津波避難の模擬システム 東大地震研など開発

津波が襲来した際に安全な場所に避難できるかどうかをコンピューター上で模擬実験できるシステムを、東京大学地震研究所などが開発した。東日本大震災での避難行動の調査結果も踏まえ、避難場所の検討などに使える自治体向

けのものを今年度中につくる予定だ。

このシステムは、巨大津波で多くの犠牲者がでた2004年のインドネシア・スマトラ島沖地震を教訓に、同研究所と防災コンサルティング会社「ベクトル総研」(東京)が開発した。

津波で被災したインドネシア・バンダアチェ市を想定し

たシステムが、このほど完成した。避難の開始地点や目的地、徒歩やバイクといった避難方法を入力すると、津波から無事に逃げられるかどうか分かる。

これを応用した国内自治体向けのシステムも開発中。避難に要する時間や、避難の進み具合などを表示できるシステムを目指している。